

おのたにがわ  
**相野谷川**

**南牟婁郡紀宝町 高岡地区 (三重県)**

●施工：大林組

**被災地・被害と工事の概要**

台風12号の豪雨により新宮川水系相野谷川の水位が上昇し、三重県南牟婁郡紀宝町高岡地区の輪中堤内に越流した。輪中堤内の全世帯が浸水被害を受けたが、その後、川の水位低下とともに輪中堤が河川側へ転倒して決壊した。

9月7日に日建連(関西支部)からの要請があり、翌8日に現地踏査、9日より鋼矢板二重締切による仮復旧工事に着手した。



災害状況全景写真  
擁壁が堤内側に滑动・転倒、輪中堤が決壊 23.9.12



復旧後全景写真  
鋼矢板による二重締切(仮復旧)完了 23.10.28

**工事の記録**

1. **パイロット道路工** 輪中堤の上流と下流の両側から工事用の仮道路を整備
2. **構造物撤去工** 河川内に転倒した擁壁ならびに損傷を受けた既設擁壁をワイヤーソーと油圧ブレーカーを併用して撤去
3. **鋼矢板打設工** バイプロハンマにより上下流2班にて鋼矢板(Ⅳ型、L=18.0m)を打設
4. **タイロッド工・支保工** タイロッド(φ25~60mm)、腹起材にて締切りを支保
5. **中詰工** 購入砕石・流用土にて二重締切を中詰め、転圧
6. **かき揚げ盛土・仕上げ工** 河川への流出土をかき揚げ、大型土のうにて仮護岸を設置して仕上げ

**現況について(11月24日現在)**

二重締切内の中詰土の沈下も落ち着いて既設擁壁との取合い部も健全性を保っており、仮復旧の機能を十分果たしている。締切前面の護岸工にも浸食は見られず、安全性は問題ない。また、輪中堤内の住民生活も徐々に静かな日常に戻りつつあるように見受けられる。この非出水期中に本復旧工事に取り掛かれ、一日でも早い堅固な輪中堤の再生が望まれる。

**今後の課題**

今回の災害復旧工事では、発注者・施工業者の連携がうまくでき、円滑に施工が進められた。社会貢献の意味でも十分とは言えないまでも一助に繋がれたと考える。そんな中、特にこのような災害復旧工事では、本質を見誤らない一貫した方針の共有と最前線である現場判断の最優先の重要性を改めて痛感した。

一方、昨今の地球環境に目を向ければ、今後も異常気象による自然災害が懸念される。今まで以上に防災(減災)に着目した社会基盤の見直しと、災害に強い街(国)づくりに期待したい。

現地の工事状況



バイプロハンマによる鋼矢板打設作業  
23.9.25



タイロッド設置作業  
23.10.22



中詰工(上段タイロッド設置)作業  
23.10.4



二重締切(仮復旧)上流側全景 23.10.28



二重締切(仮復旧)下流側全景 23.10.28



**【コメント】**

9月12日から昼夜作業を行い10月5日早朝仮締切りを完了し、11月4日までに仕上げ工事まで無事完了しました。現場は既に完了し、ほっと一息ついています。